

おおくま暮らし

お気軽にご相談ください

Q 住む場所はどんなところ？

A 町は浜通りというエリアに立地しており、いわき市より北に約50km、仙台市より南に約100kmで晴れの多い地域です。住宅は新設の公営住宅や民間賃貸などがあり、無料で利用できるお試し住宅もあります。

Q どんな仕事があるの？

A 町では起業促進や企業誘致が行われ、日々ビジネスが生まれています。町の復興に関わる仕事やまちづくりに関わる仕事など、様々な仕事があり、無料職業紹介所で紹介しています。

Q 子育て環境は？

A 「学び舎 ゆめの森」という認定こども園と義務教育学校、預かり保育、学童保育が一体となり、0歳から15歳まで、安心して子育てができる施設・環境があります。支援として、お子様の医療費や保育料を助成する制度があります。

Q 移住の補助金はあるの？

A 町では、移住に際して、移転費用の補助や家賃補助、住宅購入など様々な補助制度があります。また、福島県の12市町村への移住者に対して交付される移住支援金などもあります。

町内見学



移住相談

希望があれば随時町内のご案内をさせていただきます。先輩移住者や先輩起業家、先輩子育て世帯の方等、事前にお問い合わせいただければ調整させていただきますので、ご相談ください。



町内見学ツアー

過去から未来が創られる大熊町で、中間貯蔵施設や震災の講話などを大熊町の現地で「見て」「聞いて」現状の環境を「感じる」ことができます。普段は見れない場所の案内も定期的に行っています。

町内見学について補助金の対象となる場合があります。移住定住支援センターまでお気軽にお問い合わせください。

移住・定住のお問い合わせはこちら



移住定住支援センター

〒979-1308
福島県双葉郡大熊町大字下野上字清水307番地1

TEL.0240-23-7103
FAX.0240-23-7139



移住定住HP



Instagram



LINE



slack

発行元：大熊町役場 生活支援課

〒979-1306 福島県双葉郡大熊町大字大川原字南平1717番地 0240-23-7456



このまちの、みらいと
2024



BASIC INFORMATION

基本情報

太平洋に面した気候のため夏は海からの風が吹き涼しく、冬は比較的温暖な気候です。冬でもほとんど積雪はなく、晴れの多い地域です。年間を通して穏やかで過ごしやすい気候です。

四季

春は町内のいたる所に桜が咲き、夏祭りでは花火が打ち上げられます。秋には山々の紅葉が楽しめ、冬も過ごしやすい気候です。



特産品

最先端技術で栽培される「いちご」と、町内産酒米を使用した日本酒「帰郷」がおすすめです。



イベント

誰でも参加できるイベントが数多く開催されています。



放射線量

町内全域のモニタリング検査を実施しています。



OKUMA with YOU

これからの大熊町をあなたと

大熊町は、果物の栽培が盛んで"フルーツの香り漂うロマンの里"というキャッチフレーズがぴったりの町でしたが、2011年3月に発生した東日本大震災および原子力災害により、全町避難を経験しました。しかし、2019年には一部避難指示が解除され、2022年には町の中心地区の避難指示も解除されるなど、今まさに、大きな転換期を迎えています。これから未来へ向けて歩みを進めていく第一歩として、ゼロカーボン宣言をし、環境にやさしいまちづくりに取り組むことになりました。災害を経験した町だからこそ、真剣な取り組みです。これから更に賑わいのある、新たな大熊町の未来をつくるためには、町民や移住する方など多くの方の「知恵と力」が必要不可欠です。そのための様々な取り組みが始まっています。一步一步前進していく大熊町で、ともに新しい生活を始めてみませんか？



TO THE FUTURE

未来への取り組み

大熊町では新たな未来づくりを目指し、生活環境の充実を図るための施策を展開しています。町の活性化に加え、より多くの人々が安心して暮らせるまちづくりを進めています。

2024年12月完成



駅前開発

震災前、JR常磐線大野駅周辺は数多くの商店が立ち並び、町の賑わいの中心地でした。2020年3月に震災から約9年ぶりに大野駅の営業が再開され、2022年6月には周辺の避難指示が解除されました。2024年12月には様々な企業が入居する産業交流施設と商業施設などが完成します。その他、社会教育複合施設の検討も進められており、町の顔として魅力ある機能を集結させた賑わいの中心地として再開します。

産業交流施設

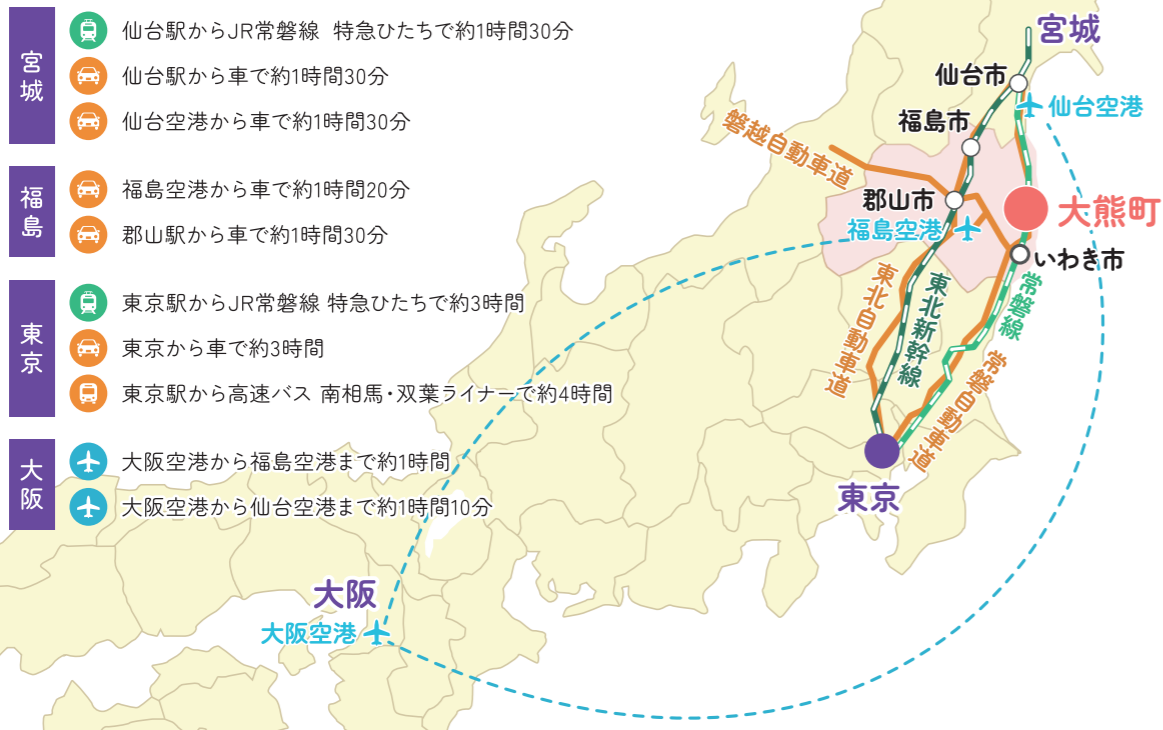
大熊町産業交流施設は、JR大野駅西口に広がる「大野駅西交流エリア」内に位置し、大熊町民と町外からの方々との交流の場やビジネスの玄関口として期待される施設です。32室の貸事務所があります。(2024年12月完成予定)

商業施設

JR大野駅西口の商業施設では駅西商店街が伸びていたエリアの一部にあたり、テナントとしてコンビニ1店、物販店1店、飲食店5店が順次オープン予定です。東側には広場もでき、ここを訪れる皆さんの憩いの場として、またかつて駅前で開催していたイベントができる場として整備を進めています。(2024年11月完成予定)



ACCESS MAP アクセスマップ



OKUMA LIFE MAP 暮らしマップ

大熊町での生活で欠かせない施設を紹介します。
運動スタジオやキッズスペースなどがあるlinkる大熊や、日用品や飲食店の集まるおおくまーとに加え
宿泊や日帰り入浴ができるほっと大熊など、日常生活を豊かにする施設も盛りだくさん。
近隣町へのアクセスも良く、毎日の暮らしに彩りを添えてくれます。


01 郵便局

2022年4月に大川原地区の町交流ゾーン内に移転・再開しました。郵便窓口・保健窓口は平日のみ利用可能です。また、ATMは土日祝日も利用可能です。




01 linkる大熊

最新のトレーニングマシンが導入された運動スタジオや、機材の充実した音楽スタジオ、講演会等に最適な研修室など、様々な場面で活用できる施設です。




01 おおくまーと

コンビニや飲食店・美容室等が並ぶ複合商業施設です。地域の住民の憩いの場になっているほか、地元の食や工芸品などの土産も販売されています。




01 ほっと大熊

自宅のようにほっとできる場所であるようにとの願いが込められているほっと大熊。宿泊施設が併設された日帰り入浴も楽しめる温浴施設です。




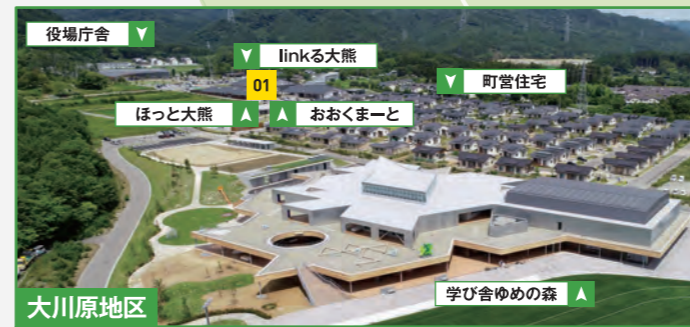
02 大熊町移住定住支援センター

大熊町への移住をサポートします。住む場所・お仕事・支援制度などの相談対応や、町内見学ツアーを実施し、大熊町の魅力について情報発信も行っています。



03 JR常磐線 大野駅

東京からは特急「ひたち」約3時間、仙台からも約1時間30分ほどです。仙台からは常磐線の原ノ町駅で乗換のルートもあります(約2時間)。

大川原地区

学び舎ゆめの森

無料 生活循環バス情報

大熊町と富岡町の各町内を循環する生活循環バスを運行中です。ゼロカーボンを目指す取り組みの一環として、2021年4月から電気バスも導入しています。どなたでも利用できる年中無休のサービスです。



- 大川原公営住宅⇔大野駅西ルート
- 大川原公営住宅⇔富岡駅前ルート
- ※2ルート運行中。ルート詳細や時刻表はこちらから▶



医療施設情報

- A 大熊町診療所 …… 車で約 1分
- B ふたば医療センター附属病院 …… 車で約15分
- C 富岡中央病院 …… 車で約15分
- D とみおか診療所 …… 車で約15分



※ 今後、現在休止中の県立大野病院の後継病院を、地域医療の中核として新たに町内へ整備します。

町内および近隣

- E 道の駅なみえ …… 車で約20分
- F イオン浪江店 …… 車で約20分
- G 大熊インキュベーションセンター …… 車で約 5分
- H JA福島さくら大熊SS …… 車で約10分
- I さくらモールとみおか …… 車で約15分
- J ならはスカイアリーナ …… 車で約25分
- K ここなら笑店街 …… 車で約25分
- L 天神岬スポーツ公園 …… 車で約30分
- M 道の駅ならは …… 車で約20分

📍 コンビニエンスストア



E 道の駅なみえ

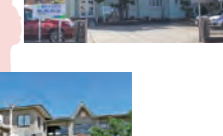
F イオン浪江店



H JA福島さくら 大熊SS



I さくらモールとみおか ※スーパー、ドラッグストア、ホームセンター



M 道の駅ならは

START

大熊ではじめる

大熊町では、企業誘致や産業創出、起業支援などを行い、「はじめる」方を募集しており、新産業やゼロカーボンビジョンに関連した企業や起業家などが活動しています。



大熊インキュベーションセンター

大熊町ならではの新たな産業づくりや未来を担う若手起業家などを育てる場所づくりを目的に、旧町立大野小学校の校舎を改修し、コワーキングスペースやシェアオフィス等が設置されています。どなたでも利用可能な交流スペースも整備され、地域課題を解決する産業や次世代のサービス・製品の開発に取り組む企業等の呼び込み・育成、住みやすく働きやすい魅力ある町の実現と、大熊町でしかできない産業の創出を目指しています。



大熊町産業団地(大熊中央産業拠点、大熊西工業団地)

大熊町では、研究開発や次世代技術・産業を育む企業群を集積する職住近接型の「大熊中央産業拠点」や災害に強い「大熊西工業団地」を整備しています。①自立・帰還支援雇用創出企業立地補助金 補助率3/4以内(大企業2/3以内) ②福島復興再生特別措置法による課税の特例 ③福島県原子力発電施設等周辺地域企業立地支援事業費補助金(F補助金) ④大熊町ゼロカーボン補助金(ZEB) など、企業立地に係る国内トップレベルの補助金や優遇措置が受けられます。



補助金情報

【大熊町創業・本社機能移転促進補助金】

新規創業する事業者:最大200万円補助 / 本社機能移転事業者:最大200～500万円補助

【福島県12市町村起業支援金】最大400万円補助 ※補助対象経費の3/4以内 ※詳細は県のHPをご覧ください



WORK

大熊で働く

大熊町では人と生業を軸とした新たな産業を産み出す企業、働く人を必要としています。日々、様々なビジネスが生まれており、働く方を応援するための制度や職業紹介なども実施しております。



一般社団法人 おおくままちづくり公社

町内資産の有効活用や地域コミュニティの形成、今後の町の成長に欠かせない移住・定住に関する各種施策を町と協働で実施しています。



株式会社ネクサスファームおおくま

年間を通じていちごの栽培が可能な太陽光利用型植物工場で、生産工程管理を行い、労働負荷の軽減と、農作業の効率化に取り組んでいます。



大熊るるん電力株式会社

「ゼロカーボンの実現」を目指す大熊町と連携しながら、地域新電力会社として再生可能エネルギー地産地消を達成するため中心的な役割を担っています。



ビジネスゲートウェイ株式会社

町内施設の指定管理や、企業誘致・地域企業の事業促進支援機能に対してビジネスコンサルティングや事業創造プロデュースなどを提供しています。



社会福祉法人おおくま福寿会

グループホーム「おおくまみの木苑」の管理運営をしています。利用者がその有する能力に応じて自立した日常生活を営むことができるように日々活動しています。



株式会社サンアメニティ

「大熊町交流ゾーン」の指定管理者として運営業務全般を担っています。地域住民の皆さまの憩いの場となることを目指し運営を続けております。

就職や求人情報に関する相談は、「大熊町無料職業紹介所」へ

大熊町移住定住支援センター内の「大熊町無料職業紹介所」では、町内にある事業所の求人をご紹介します。採用決定まで伴走し、移住の相談もあわせて実施しておりますので、お気軽にお問い合わせください。



大熊で育てる

充実した子育てスポットとして、「学び舎 ゆめの森」があります。
安心して子育てと仕事を両立ができる環境があり、様々な補助制度も充実しています。



学び舎 ゆめの森

常磐道からその外観を見ることができる、3層に積み重なったウェディングケーキのような、日本のどこにもない、学校らしからぬ外観の建物。それがゆめの森の校舎です。大熊町の未来を切り拓く、新しい町のシンボルとして2023年に誕生しました。認定こども園、義務教育学校、預かり学童保育を一体にした、0歳～15歳までの幅広い年齢層が一同に過ごすことのできる町立の施設です。子どもたちの教育だけでなく、その子どもたちの保護者である大人も、安心して子育てと仕事の両立ができる環境を整えます。



0歳～15歳のシームレス教育

ゆめの森は全国でも珍しい、認定こども園と義務教育学校の子どもがともに学ぶシームレス教育を取り入れています。幼児期の「あそび」を、内発的な「学び」に転換する学び舎です。子どもたちはもちろん、授業、教員、学習環境がシームレスにつながる「ごちゃまぜラーニング」を展開。公教育の可能性を信じ、挑戦を続けています。

"熱中する探究者"となり、未来をデザインする力を育む

ゆめの森では子どもたちの「好き」と「なぜ？」が発起点です。人は本来、誰しも好奇心のかたまり。"生涯幼稚園児"の理念のもと、一人ひとりが多様性を力に変え、芽生えた興味や関心に熱中しながら、未来を自らでデザインできる力を育てます。

ゆめの森の理念を体現する学び舎

0歳～15歳のシームレス教育の拠点、住民の方も集える学び舎として、ゆめの森は竣工しました。「わたしがはじまる場所」である校舎は、本のひろばを中心に、ひとつひとつ異なる形の空間が全方向に混ざり合う形状。さまざまな人が行き交い、保護者の方々、地域、社会、学校がともに物語を創る"地域の共創空間"として、もっとも優しい場所となります。



 **学び舎 ゆめの森**
Manabiya Yumenomori

公式ホームページ▶



大熊町で活躍する人たち

帰還者や移住者など、多様な人が活動しています。
さまざまな想いをもちたたちが集まり、町とともに成長しています。



一からのまちづくりに可能性を感じて

岩船 夏海さん / 大熊町移住定住支援センター 職員
大熊町に来る前は、特別支援学校の教員をしていました。やりがいのある仕事だし、具体的な不満があったわけではないのですが、"このままずっとこの仕事に従事して、学校しか知らない人間になっていいのか"という自問自答があったんです。いちど学校の外に出て、別の視点で学校や学校教育についてみてみたい、という気持ちで大熊町へ移住しました。移住者だからこそその視点を活かし、大熊町の未来を考えています。



心身癒やす安らぎの場へ

田澤 敦さん・美香さん / 理容室「かっとなざわ」
震災後、会津若松に避難し、仮設住宅の一部を利用して営業再開後、会津若松市内で店舗を構えましたが、帰町した方からの「戻ってきてほしい」との声に背中を押され、ふたりで相談し帰還を決意しました。2023年1月15日、震災から11年10ヶ月ぶりに元の場所で営業を再開。震災前のようににぎわいはすぐにはみずかしいと思いますが、それでも毎日の営業を積み重ねて、新しく町民になった方にも気軽に訪れてもらえる店にしたいです。



ほっと一息できる交流の場を

武内 一司さん / 軽食・喫茶レインボー 店主
「軽食・喫茶レインボー」は、私が25歳の時、大好きだったイギリスのギタリスト「リッチー・ブラックモア」率いるロックバンド「レインボー」を店名に掲げて、昭和53年に大熊町にオープンしました。一度は避難しましたが、「町の活性化、若い人たちが将来大熊町に戻ってくるためにも」と決意し、妻と二人で「もう歳だ、疲れる」と言いながら、元気に昼のみの営業を切り盛りしています。町の素材を使ったメニューを開発中です。



大熊の子供たちの未来に花を添えたい

佐藤 右吉さん
大川原地区に生まれ育ち、大熊町でずっと暮らしていました。町内パトロール隊として大熊町に通い、「ざる菊」に出会ったんです。2018年に大熊町で一番最初の帰町者として自宅での生活を始め、道路脇に植えたら、みんなが『それは何という花ですか』って声を掛けてくれる。花の力はすごいね。会話を生むし、人を呼ぶ。せっかく来てくれるんだから、と庭づくりもうんと楽しくなって、他の花にも挑戦したり、あずまやを造ったりしています。

大切なものは何か、気づかせてくれる場所

現在、大熊町で自然農業を実践し、果実や野菜を育てているブケ・エミリーさん。
愛らしいグッズを展開するイラストレーターとしても人気を博しています。
彼女の大熊町移住と、現在の暮らしについていろいろお伺いしました。



大熊町に移住したきっかけは？

フランス語を教えていた生徒さんに福島出身の方がいて、その方からお話を聞き、「福島が怖い」と根拠もなく思っていた自分に疑問を持ったことが最初のきっかけです。それから浜通りの桜を見に来て、イラストを描こうと思ったときに、「ここで農業がしたい」と思いました。

どんなところに住んでいますか？

民間の賃貸アパートに住んでいます。猫と一緒に暮らせることが絶対条件だったのですが、町のお祭りの時に住まいについて相談したら、いまのアパートの大家さんを紹介して下さって。役場へのプレゼンよりも前に住居が決まりました。アパートから畑までは車で5分。快適です。いま、大熊町では避難解除になった区域から順に整備が始まっていて、この先、住宅もさらに増えると思います。住宅に対する補助・援助もさまざまなタイプのものが用意されているので、踏み出しやすいんじゃないかな。

仕事はどんな内容ですか？

約1.7ヘクタールの畑で自然農業に取り組んでいます。ラズベリーを主力作物に、ブラックベリーやブルーベリー、ミントやローズマリーといったハーブやジャガイモなどの野菜、アンズ、リンゴ、サクランボなどの果樹。これから、栗と桃を植えようと思っています。また、以前の仕事のイラストレーションも続けています。

暮らしに不便な点はない？

病院やマーケット、駅などの整備もそんなに遠い話ではない、と聞いていますし、わたし自身はいまの状態でもあんまり不便は感じていません。むしろ、「自分にとってほんとに必要なものって何かな、何がどれくらいあれば十分かな」ってことが整理できて、人生が豊かになっています。

大熊町は暮らしやすい？

東北の中では比較的温暖で、雪も少ないです。わたしの故郷のブルターニュにも少し似ているから、リンゴの栽培にもチャレンジしています。

大熊町でいちばん好きな場所は？

山の景色！坂下ダムのほつりをウォーキングするのがとても気持ちいいんです。また、畑から見える山の景色も、アパートから見える山の景色も、とても好き。天気や時間によって景色が変わるからおもしろい！

ブケ・エミリーさん

2011年来日。浜通りの桜がきっかけで大熊町に移住し、自然農業やイラストを生業としている。自分にとって必要なものや量が整理でき、人生が豊かになっています。

"ここにずっと通いたい" ゆめの森に惹かれ移住

ともに大阪府で生まれ育ち、出会い、結婚後もずっと大阪で仕事と子育てをしてきた中川さん夫妻。
縁もゆかりもなかった大熊町が、なぜ家族にとっての新天地となったのか。
そこには、かけがえのないふたりのお子さんの「いま」と「これから」を見据えた家族愛がありました。



移住を考えたきっかけは何ですか？

子供たちが不登校になったことです。住んでいる場所を動かず近場で転校することを考えて候補を狭めてしまうより、子供たちにとって最高に合う学校が遠いところにあるなら、移住もありだね、と家族で話し合いました。

どのようなサポートを利用しましたか？

まずはどんなまちなのかを知ろうと、大熊町が用意している「お試し住宅」で2泊3日の移住体験宿泊に申し込みました。2023年の5月に申し込んで、6月の最初の週に2泊3日の滞在をして、『大熊町立 学び舎 ゆめの森』の見学や校長先生との対話をさせていただきました。

「ゆめの森」を訪れてみて、いかがでしたか？

見学したその日の夜には、子供たちが"ここにずっと通いたい"と言うんです。在校生の皆さんと一緒に遊んだのがとても自然で、楽しかったようでした。私たち親としても、校長先生のお話にすごく頷けたというか、「こんなふうの子供のことを考えてくれる学校があったんや」と驚きました。

中川透磨さん・有里さんファミリー

縁もゆかりもなかった大熊町に家族4人で移住。「ゆめの森」には子供たちがいきいきと勉強でき、得意な分野の勉強を伸ばしてくれるなど、自由度の高い環境がありました。

大熊町での暮らしはいかがですか？

転職したことで、家族で過ごす時間が増えたこともとても良かった点です。仕事が終わるのが早いので、帰宅してからショッピングモールに買い物に行ったり、子供と遊ぶ時間も増えたり。「時間に追われる」という暮らしから開放されたのは子供たちだけでなく、親の私たちもだったのかもしれない。

お子さんたちの暮らしぶりはいかがですか？

「ここまでできるなら中学の問題にもチャレンジできるよ」と自分の得意な分野の勉強を伸ばしてくれるところが性に合ってるようです。人と足並みを揃えることを強制せず、授業も勉強に集中できる体勢ならどんな格好でもいいよ、と子供の個性を尊重してくれるところが、ふたりには合っていたのだと思います。

移住を考える方へのアドバイスをお願いします。

自分たちにとって大切なことに優先順位をつけて、絶対に譲れないものに関してはとことん調べて納得することですね。私たちにとっては『ゆめの森』があるから大熊町に住もうと決めた。じゃあ、他に何が必要か、と考えて、小児科のある病院やショッピング施設などもリサーチして納得してこちらへ来たので、不便は感じないです。むしろ、新しいものは、これからどんどん増えていきますから、長いスパンで見たら、こんなにわくわくできるまちはないと思いますよ。

STEP

移住までのステップ

理想の暮らしを見つけるための大事な準備期間。移住までの6ステップを時系列でご紹介します。
仕事や自分の生活、パートナーとの生活、家族との生活。理想の暮らしを考えてみましょう。

<p>STEP 1 調べる</p> <p>情報収集をする</p> <p>大熊町に興味を持った ら、移住ポータルサイト やSNSで情報収集しま しょう。</p>	<p>STEP 2 聞く</p> <p>センターへ相談する</p> <p>町のこと、住まい、仕事、 補助制度など何でもお答 えします。大熊町移住定 住支援センターへ相談し てみましょう。</p>	<p>STEP 3 感じる</p> <p>大熊町へ行ってみる</p> <p>実際に町の様子を見たり、 町内見学ツアーやイベ ントに参加してみましょ う。</p>
<p>STEP 4 泊まる</p> <p>暮らしを体験する</p> <p>あなただけの移住体験プ ログラムをオーダーメイド できます。お試し住宅に 宿泊し、実際の暮らしを 体験してみましょう。</p>	<p>STEP 5 見つける</p> <p>仕事と住まいを探す</p> <p>大熊町での暮らしを想像 し、仕事や住まいを探し ましょう。</p>	<p>STEP 6 決める</p> <p>移住する</p> <p>移住後もさまざまなサ ポートをしております。移 住後に申請できる補助金 についても確認しておきま しょう。</p>

PROGRAM

暮らし体験プログラム

「お試し住宅」をキーとする暮らし体験プログラム。
実際に宿泊し、町内を周遊することで、移住後の生活を体験できます。



移住体験宿泊

5LDKの「お試し住宅」で宿泊しながら、買い物などの日常生活をしてみることで、移住した後の生活を思い描くことができます。



暮らし案内

大熊町周辺の買い物スポットやレジャースポット、医療施設・福祉施設など、周辺の生活環境が記載されたパンフレットを見ながら、町を周遊します。



先輩移住者との交流

住まいや子育て・仕事など、移住後の生活・分野ごとの悩みを相談することができます。リアルな大熊ライフについて聞いてみましょう！

補助金情報

【移転費用補助】最大20万円 ※引越し費用・交通費・移転の手続きにかかる費用等

【家賃補助】最大144万円 ※家賃の50%補助、上限は月4万円で最大36か月分（※詳細はお問い合わせください）

#okumagram

おおくま暮らしを切り取る

大熊町は参加型のイベントや行事、おいしいグルメなどがあり、ほっと一息つける場所です。
そんな大熊町のほっとスナップを集めました。



生活循環バス

大川原地区の住宅地

魚定食おしだ

帰忘郷

鈴木商店

坂下ダムウォーキング

夏まつり

餅つき

コミュニティキッチン090

さかい

桜と特急ひたち

EVシェアリング

ジム

十川食堂

田植え風景

移住に関する補助制度

大熊町では、皆様が移住し、生活しやすいようにさまざまな補助制度を整えています。

※2024年3月現在の情報です。補助金を申請するには各種要綱に定められた条件を満たす必要があります。詳細についてはご相談ください。

移住

福島県12市町村移住支援金

子育て世帯加算あり

単身 **120万円** 世帯 **200万円**

県外から福島12市町村への移住の方が受けられる支援金です。条件不利地域を除く東京圏から18歳未満の世帯員と一緒に移住する場合、一人当たり100万円が加算されます。



ふくしま12市町村移住支援等交通費補助金

交通費及び現地での
宿泊費を補助

福島12市町村への移住を検討する県外在住者が訪問、現地活動を行う際の交通費と宿泊費の一部を補助します。
※出発10日前までに申請が必要です



家賃支援事業

申請から36か月間

最大 **月4万円**

町に転入し、自身の住居として民間賃貸をご契約される方へ、家賃の半分(最大月4万円)を36か月間補助します。

大熊町ふるさと帰還移住支援事業

県外 県内

最大 **20万円** 最大 **15万円**

町外から住民票の異動を伴い転入し、町内に1年以上継続して居住している方を対象に、引っ越し費用等を助成します。

移住体験は無償の「お試し住宅」へ

移住前に大熊町での日常生活を実際に体験できます。移住後のミスマッチ防止を目的とし、暮らし体験プログラムを通じて町の生活が体験できます。



住宅

住宅の購入[新築・中古]

来て「おおくま」補助金

最大 **500万円**

町に転入し、自身で居住する住宅を取得する方への補助金です。新築の場合最大500万円、中古の場合は購入に最大200万円、修繕に最大250万円を補助します。

ZEH住宅への支援[新築]

対象経費の1/2

最大 **500万円**

町内で、自身が居住する住宅がZEH基準への適合住宅である場合に、最大500万円を補助します。

再生可能エネルギー設備等導入補助金[新築・中古]

例) 太陽光5kw + 蓄電池5kwhの場合

100万円

町内の住宅や事業所に太陽光パネルまたは蓄電池を設置する際に申請ができる補助金です。
※ZEH住宅補助との併用はできません

省エネリフォームの補助[中古]

対象経費の2/3

最大 **150万円**

町内の住宅や事業所で、省エネ型リフォーム(エコキュート・高効率エアコンの導入、オール電化、断熱性の向上等)を行う際に申請ができる補助金です。

子育て

乳幼児・子ども医療費助成

無償化

0~18歳年度終了までのお子様にかかる保険適用内分の医療費についての窓口負担を無償化しています。
※手術での治療や接骨院等については後日申請にて還付いたします

保育料・預かり保育料

無償化

学び舎 ゆめの森 認定こども園に通う0歳から卒園までのお子様の保育料・預かり保育料ならびに、その他の経費(給食費等)についても無償化しています。

出産応援給付金

妊娠時に

5万円

妊娠届を提出した(する)妊婦の方へ給付します。

子育て応援給付金

出産後に

5万円

乳児を養育する方へ給付します。多胎児(双子)の場合は10万円を給付します。

出産祝金

第1子、2子

第3子以降

5万円 **20万円**

出生後、町に住民登録した新生児を扶養している方へ支給します。

妊娠・出産・育児子育てに関する相談は、子育てサポートセンター「おおくまっこ」へ

大熊町子育てサポートセンター「おおくまっこ」では、妊娠期から子育て期まで切れ目のない支援のため母子健康手帳の交付時に、保健師等の専門職が妊婦さんの体調や心配事のお話をうかがいます。



仕事

福島県12市町村起業支援金

最大 **400万円**

県外から12市町村へ転入し、新たに起業する方が受けられる支援金です。対象期間内の起業に要した経費を補助します。

ふくしまぐらし。×テレワーク支援補助金

短期

1万円/泊

長期

最大 **30万円**

福島県へ移住を検討する方や二拠点居住などを希望する県外在住者の方へ、県内に一定期間滞在し、テレワークを行うための費用を補助します。※出発10日前までに申請が必要です

生活

次世代モビリティ導入補助金

EVの場合

最大 **110万円**

町内を拠点として使用するための導入補助金です。EVで最大110万円、PHVで最大60万円、FCVで最大250万円の申請が可能です。

フィットネスクラブ施設等利用助成

自己負担1割

最大 **2万円**

入会金を除く、運動施設利用料の月会費3か月分の9割を助成します。

町内食堂利用助成券

食事1回あたり

700円

町内の対象食堂での食事1回につき700円の助成をします。1人につき期間中最大4回まで助成を受けとることができます。

詳細はこちら

子育てに関する支援



生活に関する支援



仕事に関する支援

